

やまりん新聞



NS-LOW HEAD Power8

強度区分4.8/5.8の従来のNSローヘッドキャップに、強度区分8.8相当を実現した、日産社の「NSローヘッドパワーエイト」のご紹介です。



特徴：

- ・極薄頭部形状にて軽量化。キャップスクリーン一般品に対して約4割減(図1、表1参照)
- ・耐遅れ破壊新材料仕様により高硬度で

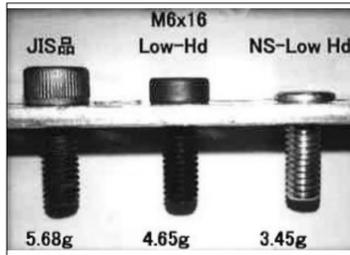


図1 頭部高さの比較

表1 キャップスクリーン一般品とローヘッドキャップとの比較

	JISキャップスクリーン	ローヘッドキャップ	NSローヘッドキャップ
サイズ	M6×16	M6×16	M6×16
重量	5.68g	4.65g	3.45g
重量比較	100%	-18.1%	-39.3%

- ・もネジ対応可
- ・クリアランスのない個所に最適
- ・デザイン的に十字穴を使いたくない等、デザイン性向上

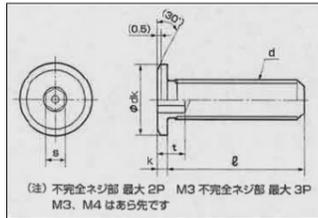


図2 NSローヘッドパワーエイト

使用方法：

- ・六角穴が通常サイズより小さいため、限界まで締付けトルクをかける場合は、ナット側からの締結が必要です。

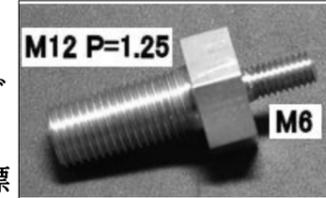
M10以上は頭部厚みの変更で対応できます。詳細は別途ご相談ください。

表2 NSローヘッドパワーエイト 規格

ねじの呼びd	M3	M4	M5	M6	M8	
ねじのピッチ	0.5	0.7	0.8	1.0	1.25	
φ dk	基準寸法	6	8	9	10	13
	許容差	±0.18	±0.22			±0.27
s	呼び	1.5	2	2.5	3	4
	許容差		+0.08 +0.02			+0.095 +0.020
k	基準寸法	1.3	1.5			
	許容差		±0.1			
t	最小	1.2	1.7	1.8	2.5	4.2

カスタム仕様の交換アダプタ6

今回は、お客様のご要望にもとづき、製作させていただいた「カスタム仕様の交換アダプタ」で「おねじ同士(ADCFMM)」、「おねじとめねじの組み合わせ(ADCFMF)」、「めねじ同士(ADCFFF)」の3パターンのおねじ交換アダプタをご紹介します。

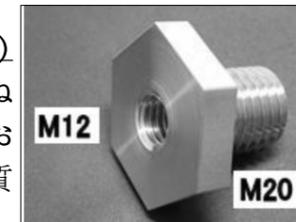


下記URLに掲載の「標準仕様おねじ交換アダプタ」写真1 おねじ交換アダプタ1シリーズのカスタム対応形になります。

<https://www.ymzcorp.co.jp/ym11/nejiadapter.html>

1. おねじ交換アダプタ1(写真1)

M12 P=1.25(細目)おねじと、M6 P=1.0(並目)おねじの組み合わせ。材質はステンレス(SUS304)です。



2. おねじ交換アダプタ2(写真2)

M12 P=1.75(並目)めねじと、M20 P=2.5(並目)おねじの組み合わせ。材質はステンレス(SUS304)で

写真2 おねじ交換アダプタ2

す。
3. おねじ交換アダプタ3(写真3)
UNF#10-32山めねじと、M4 P=0.7(並目)めねじの組み合わせ。材質は真鍮(C3604)です。

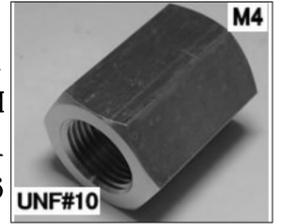


写真3 おねじ交換アダプタ3

弊社からのお知らせ

○標準仕様おねじ交換アダプタADCFM-Aシリーズについての注意点

上述のウェブサイトに掲載している、おねじめねじ型タイプ(標準仕様)は、一部型式はめねじ貫通タイプ(図3a)ですが、それ以外はすべて、製造上の都合で、両側からめねじを切っためねじ非貫通タイプ(図3b)です。従いまして、ねじ下穴は貫通していますが、めねじは貫通していませんので、ご注意ください。

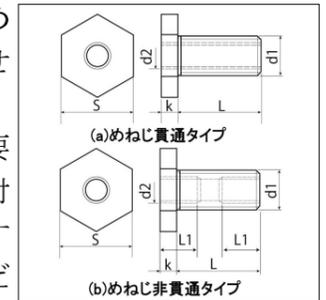


図3 おねじ交換アダプタADCFM-Aシリーズ

めねじ貫通タイプが必要な場合は、カスタム仕様で対応できる場合がありますので、お問い合わせください。

ねじの雑学

現在、ねじのドライブ穴(リセス)は、十字穴が普及しています。その理由として次のようなことが考えられます。

マイナスねじは、ドライブの軸とねじの軸の中心がずれることがあり、このときねじは回しにくく、その点、十字穴の場合には、それぞれの軸同士の中心がずれることなく、ねじをスムーズに回転させることができます。特に機器の量産等で電動ドライブを使う場合には、この十字穴の特長がねじ締め効率化に大きく貢献します。

私自身、マイナスねじはほとんど普及していないと思っておりましたが、先日テレビ番組で、マイナスねじにもメリットがあり、まだ使用される場面があることを知りました。

その特長は、下記のようなことでした。

1. マイナス溝にゴミが溜まっても、掻き出すことができる。
2. ドライブがなくても硬貨等で代用できる。

3. ドライブをねじ溝に押付けなくても、溝の引っ掛かりで回転させることができる。

その放送以来、ねじ屋の性でしょうか、街中でマイナスねじが使われていないかを探すようになり、先日ようやく発見しました。

それが、JR京都駅で停車中の電車のドアステップ(写真4)です。乗客が土足で出入りする部分は、砂埃等がたまりやすく、このマイナス溝に砂が溜まっても、掻き出せば美観を保つことができ、なるほどと納得しました。ちなみに、別の電車の同じ部分を見てみたところ、十字穴のねじを使っていた！。納得した後で、ちょっと残念でした！

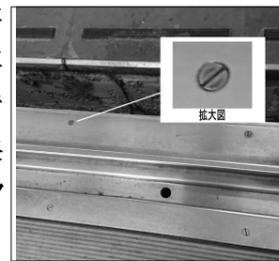


写真4 電車のドアステップ

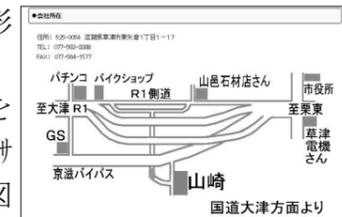
ITへの扉(入門編) No.8

近年、ブラウザで見るウェブサイトは、Windowsアプリケーション風のユーザーフレンドリーなデザインになっていて、

ストレスなくサイトを閲覧することができるようになりました。

しかしながら、インターネットが普及し始めた十数年前は、現在のような動きのあるサイトではなく、サーバーに要求を出して、その結果をブラウザが受け取り、画面に表示するという、単純で静的なものでした。当時は、あえてサイトに動きをつけるために、GIFアニメーション等を使ったものです。GIF(ジフ)は画像ファイルの形式で、編集ソフトを使い、複数の静止画像をつなげてアニメーションを作ることができる画像形式です。

このGIFアニメーションを使った一例が、弊社サイトの会社所在地図(図4)です。この地図は、図4 弊社会社案内のサイト(※1) 簡単明瞭ですが、どこことなくIT口です。最近ではGoogle Mapや動画が主流ですね。



現在の動きのあるウェブサイトでは、クライアント側のプログラミング言語であるJavaScriptと、文書構造を

指示するHTML(HyperText Markup Language)、サイトのデザインを指示するCSS(スタイルシート、Cascading Style Sheets)が重要な役割を担っています。

これらについて簡単に説明します。ブラウザはサーバーから送られてくるHTMLを受け取ります。このとき、HTMLに記述された指定のCSSを読み込みます。そしてブラウザは、HTMLの文書構造とCSSのデザイン指示に基づきウェブサイトの画面を描画します。CSSの設定が変更されるとサイトのデザインが大きく変わり、場合によってはデザインが崩れることがあります。また、ブラウザの違いによって、CSSの解釈が異なる場合があります。ウェブサイトを作成するときはCSSの設定に注意が必要です。

JavaScriptは、ユーザーの入力した文字をチェックしたり、HTML、CSSを任意のタイミングで書き換えたりすることができ、サイトのデザインを動きのあるものにします。

(※1)<https://www.ymzcorp.co.jp/ym11/kaisya.html>
十数年前の弊社サイトで導入した、車の動きで道順を案内するGIFアニメーションです。弊社への道順が分からないというお客様が多いため、最近復活させました。